資　料

# 離乳舎で多発する疾病について
## ～１臨床検査機関のデータより～

矢　原　芳　博（日清丸紅飼料㈱　総合研究所）

Yahara, Y. (2015). Statistics of reported diseases from swine farms
～ From the data of a clinical laboratory ～
*Proc. Jpn. Pig Vet. Soc.* 66, 11-15.

キーワード：離乳舎、疾病データ

## はじめに

2013年10月、それまで中国、北米で大発生していた豚流行性下痢（PED）が日本でも発生し、2014年で日本全国に拡散した。PED による死亡頭数は、農水省の取りまとめによれば2014年８月31日までで、376千頭に達しており[1)]、2010年の口蹄疫発生時の死亡淘汰頭数を大きく上回るアウトブレイクとなった。養豚業界ではこの間、PEDへの対応が中心的な課題となっていた。しかし、養豚生産現場では、今回の PED 流行の前から様々な疾病が発生しており、特に、生後20～30日齢前後で離乳された子豚が、その後数週から数か月収容される離乳舎においては、多くの疾病による経済的被害が、現時点においても引き続き看過できない。

本稿では、これらの離乳舎で多発する疾病について検討するための参考資料として、実際の野外の養豚場では、どのような疾病が多発しているのか、筆者が所属する民間の家畜臨床検査機関に寄せられた検査依頼から集計されたデータを紹介する。

## 材料と方法

発生疾病の集計方法：

日清丸紅飼料株式会社　総合研究所　検査グループ

表1　疾病名略号の一覧

| 大分類 | 略号 | 病名 |
|---|---|---|
| 呼吸器病 | APP | 胸膜肺炎 |
| | PRRS | 豚繁殖・呼吸障害症候群 |
| | PAS | パスツレラ肺炎 |
| | PCV2 | 豚サーコウイルス2型感染症 |
| | MPS | マイコプラズマ肺炎 |
| | SIV | 豚インフルエンザウイルス感染症 |
| | HPS | グレーサー病（肺からの分離） |
| | AP | トゥルーペレラ（アルカノバクテリウム）ピオゲネス感染症（肺からの分離） |
| | STREPT | レンサ球菌症（肺からの分離） |
| 衰弱死亡 | 大腸菌症 | 大腸菌症（浮腫病を除く、下痢以外で臓器から多数分離された症例） |
| | STREPT | レンサ球菌症（肺以外からの菌分離） |
| | 浮腫病 | 浮腫病 |
| | HPS | グレーサー病（肺以外からの菌分離） |
| | SAL | サルモネラ症 |
| | スス病 | 滲出性皮膚炎（*Staphylococcus hyicus*による） |
| | CLOST | クロストリジウム症（下痢よりも全身症状が主症状の場合） |
| | PRRS | 豚繁殖・呼吸障害症候群（肺のみに限らない症状の場合） |
| | SE | 豚丹毒 |
| | ブ菌症 | ブドウ球菌症（*Staphylococcus hyicus*以外の分離） |
| | PCV2 | 豚サーコウイルス2型感染症（呼吸器症状以外の場合） |
| | 敗血症 | 原因菌が不明であるが、多臓器に細菌感染の病変がみられる場合 |
| | AP | トゥルーペレラ（アルカノバクテリウム）ピオゲネス感染症（肺以外からの分離） |
| 下痢 | 大腸菌症 | 大腸菌症（下痢を主徴とする場合） |
| | PED | 豚流行性下痢 |
| | CLOST | クロストリジウム症（下痢を主徴とする場合） |
| | PPE | 豚増殖性腸炎 |
| | SAL | サルモネラ症（下痢を主徴とする場合） |
| | ROTA | ロタウイルス感染症 |
| | COCCI | コクシジウム症 |
| | TGE | 豚伝染性胃腸炎 |
| | 鞭虫症 | 鞭虫症 |
| | 回虫症 | 回虫症 |

＊これらの疾病大分類、疾病略号等は、筆者の検査機関で独自に用いているものであり、
詳細な定義については、各種の成書と異なる可能性もある。
＊大分類には、他に異常産、その他、があるが本稿の主題が離乳舎の疾病であるので割愛した。

に、2013年１月～2014年12月に送付された3,582件の検査依頼のうち、定期疾病検査や病性鑑定目的の1,052件について、依頼ごとに原因疾病の集計を実施した。

個々の検査依頼に対して分類される疾病名の一覧を表１に示した。当社の検査グループでは、有料で検査依頼を受けているが、依頼検体に対する検査項目は、依頼者から指定された項目が基本となるため、疾病名を確定するために必要十分な検査を実施できない場合もある。疾病名が不明に終わってしまった依頼案件はその他に分類するため、本資料におけるすべての症例が確実な病性鑑定によるとは限らない。

## 結果と考察

2013年、2014年の２年間に、野外の養豚場から当社検査グループに依頼された1,052件について、検査で確認あるいは推測される疾病名を、呼吸器病、衰弱死亡、下痢、異常産の４種に分類し、大分類別の月間症例数を図１、２に示した。このうち衰弱死亡という分類は、呼吸器病、下痢、異常産以外の症状により衰弱あるいは死亡する症例を総称したもので、豚サーコウイルス２型感染症（呼吸器症状を示さない場合）やレンサ球菌症、浮腫病、スス病などが含まれる。

2013年の月間症例数は、月による症例数のバラツキはあるが、呼吸器病、衰弱死亡、下痢、異常産が毎月数例から数十例は発生している（図１）。2014年の月間症例数は、特に５月以降からPEDの症例が増加することにより、下痢の症例数が増加している（図２）。

さらに2013年と2014年の疾病名別の年間症例数を、左から多い順（2014年の年間症例数）に並べたものが図３である。この２年の間に、PEDの症例数が劇的に増加しているが、それ以外の疾病に関しては2013年と2014年で大きな症例数の増減は見られない。この図３を表１の大分類ごとに別のグラフにまとめたものが図４～６である。呼吸器病では、APP、PRRS、PAS、PCV2、MPS、SIV、衰弱死亡では大腸菌症、STREPT、浮腫病、HPS、SAL、下痢では大腸菌症、PED、PPE、CLOST、SALなどが多発している。

これらの疾病は、一般的に離乳舎で好発する疾病として知られており、これが当検査機関の症例数にも大きな影響を及ぼしていると考えられる。

## まとめ

2013年10月の沖縄での発生以降、翌2014年から現在まで、PEDによる生産性の阻害は多大なものがある。一方、離乳舎ではPEDとは異なる多種多様な疾病が継続的に発生している。これらの疾病にも目をそらさずに、対策を打ち続ける事は、養豚業の生産性の改善に不可欠である。

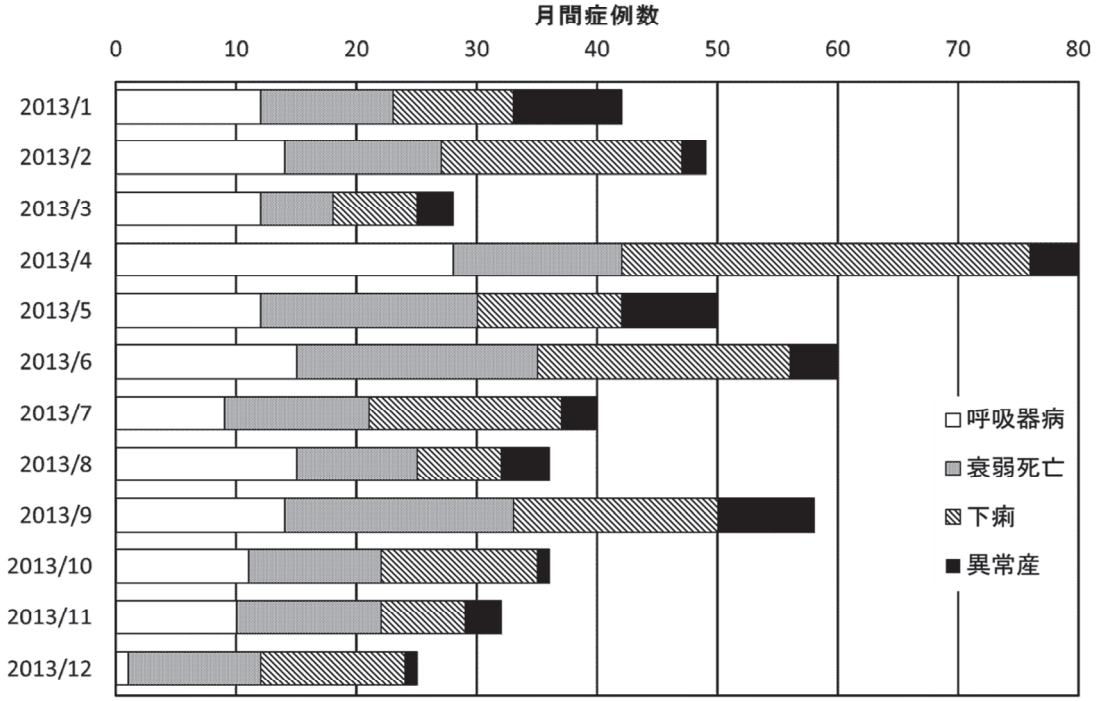


**図1　疾病診断数2013年（健康・その他除く）**

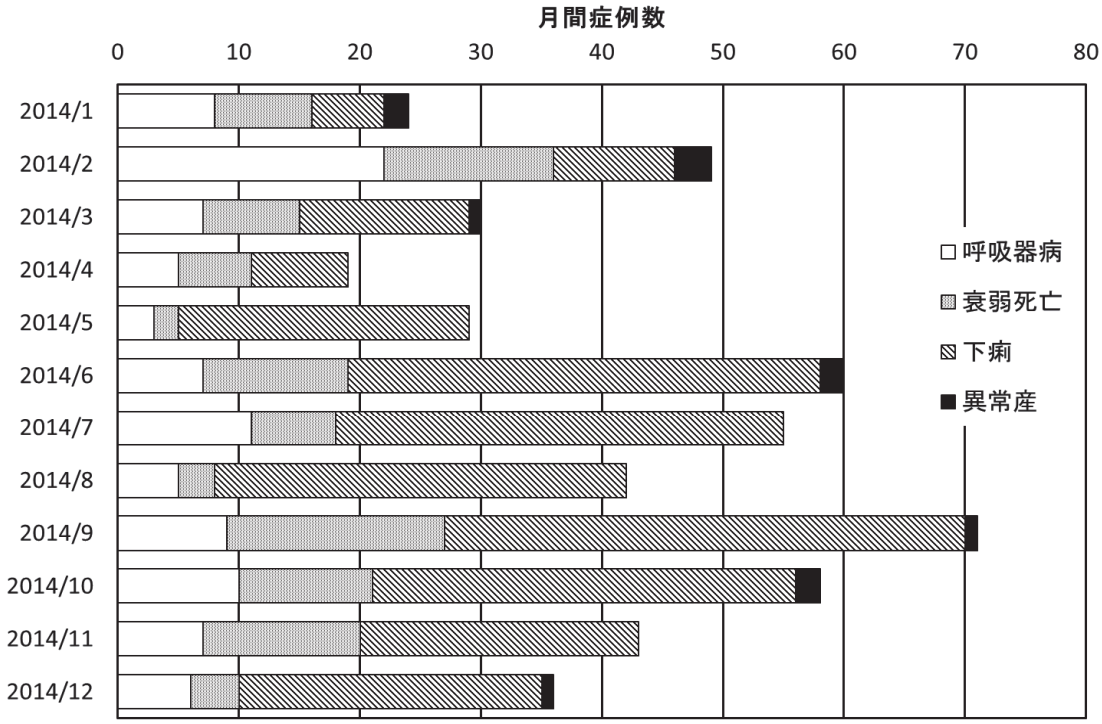


**図2　疾病診断数　2014年　（健康・その他除く）**

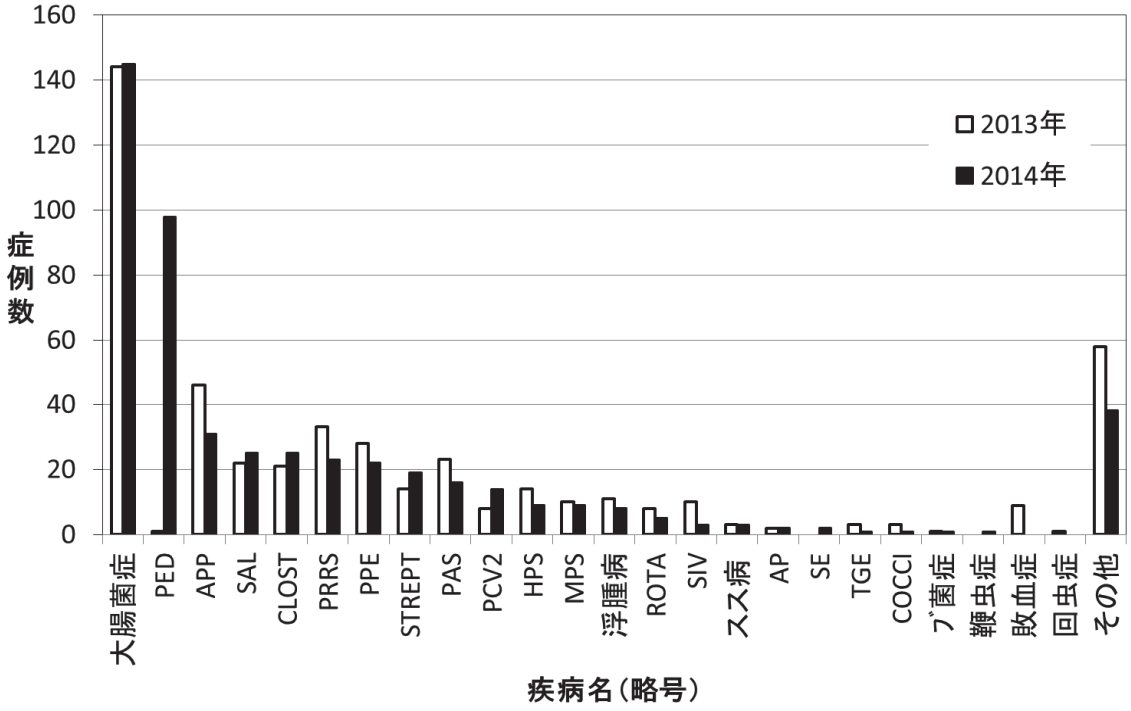


**図3　疾病別　年間症例数（2013～2014年）**

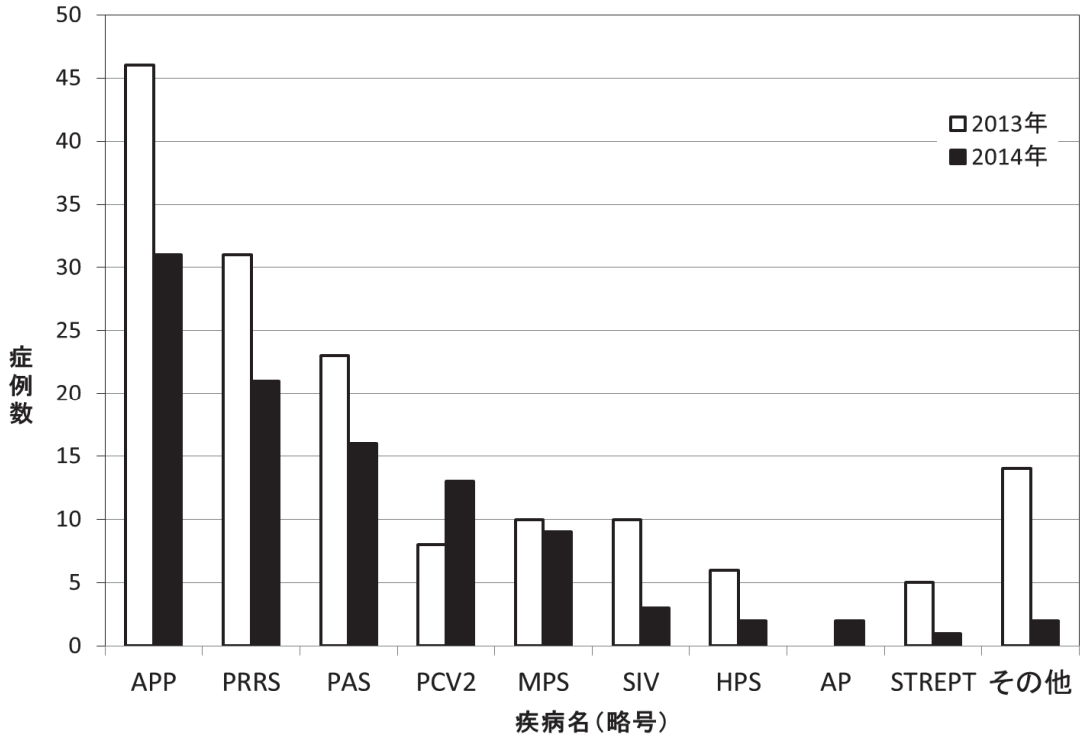


**図4　呼吸器病　年間症例数（2013～2014年）**

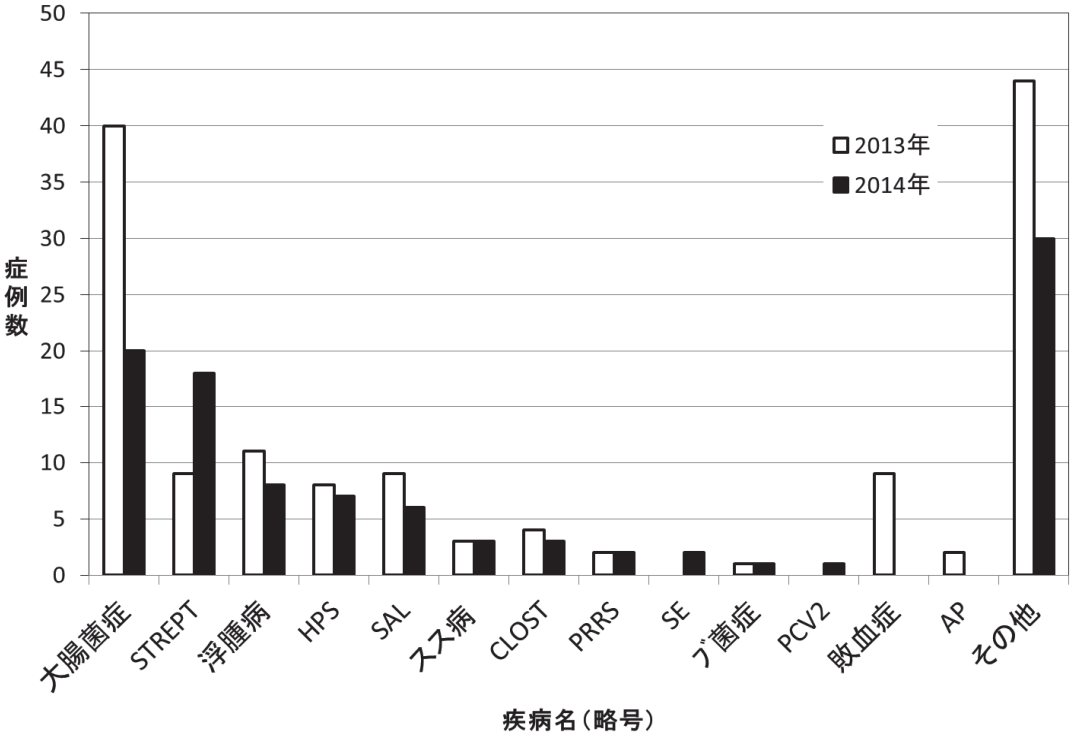


**図5　衰弱死亡　年間症例数（2013～2014年）**

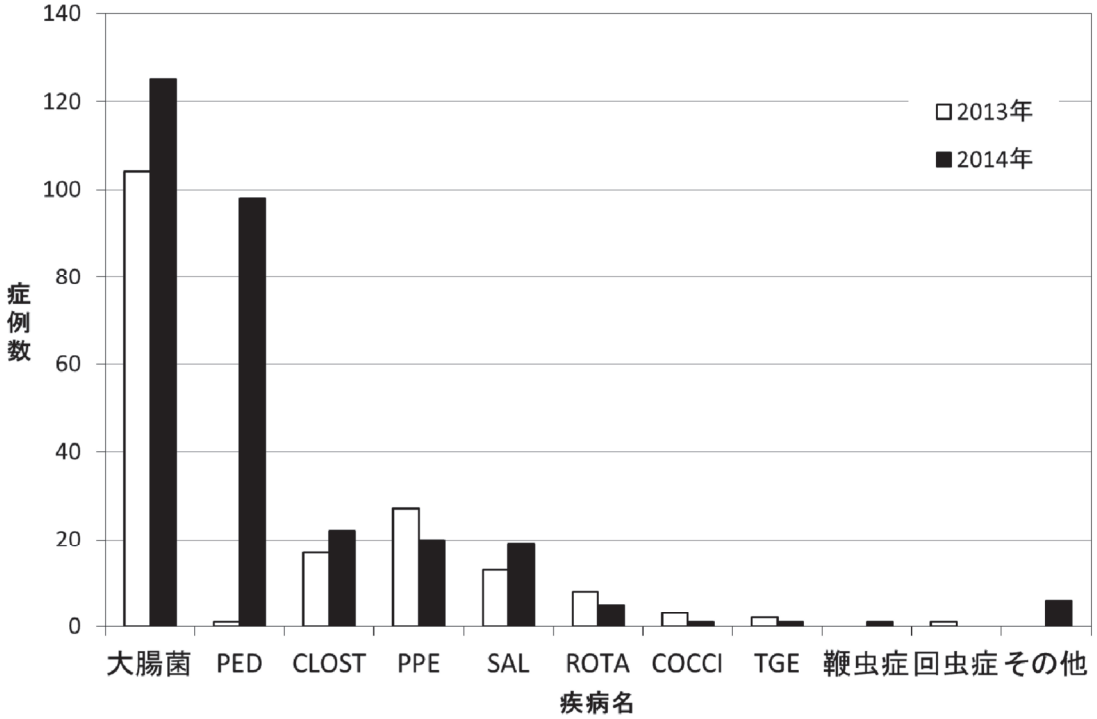


**図6　下痢　年間症例数（2013～2014年）**

引用文献

１）農林水産省（2014）豚流行性下痢（PED）の疫学調査に係る中間とりまとめ，p3.
http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/ped/pdf/ped_ekigaku_chukan.pdf